

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(24年4月) —総合指数は横ばい、コア指数は低下

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 総合指数は横ばい、コア指数は低下が継続

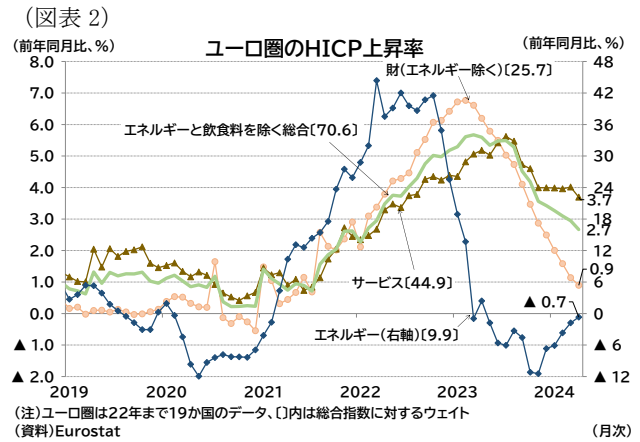
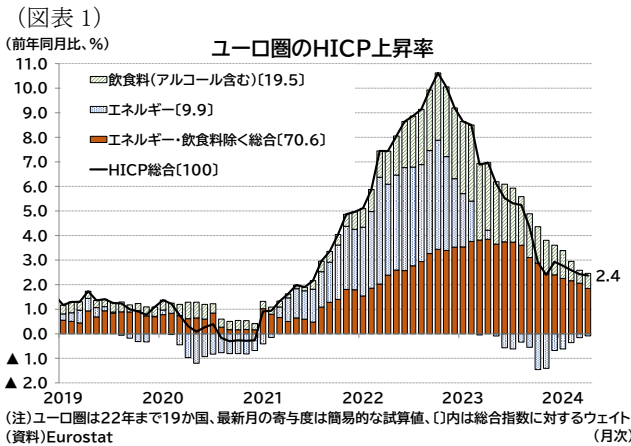
4月30日、欧州委員会統計局(Eurostat)は4月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は2.4%、市場予想¹(2.4%)と一致、前月(2.4%)から横ばいだった(図表1)
- ・前月比は0.6%、予想(0.6%)と一致、前月(0.8%)から低下した

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は2.7%、予想(2.6%)から上振れ、前月(2.9%)から低下した(図表2)
- ・前月比は0.7%、前月(1.1%)から低下した



2. 結果の詳細: 物価上昇の勢いの加速は継続

4月のHICP上昇率³(前年同月比)は全体で2.4%となり、3月と同じだった。一方で「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」は3月の2.9%から2.7%にさらに低下した。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財(飲食料も除く)」が2月1.6%→3月1.1%→4月0.9%と低下が続いている。「サービス」(エネル

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

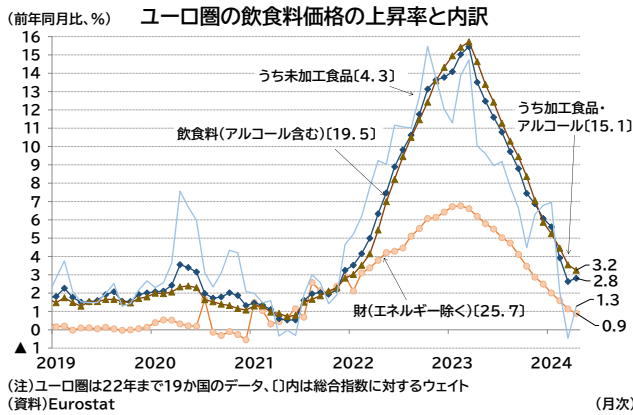
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ(以降も特に断りがない限り同様)。

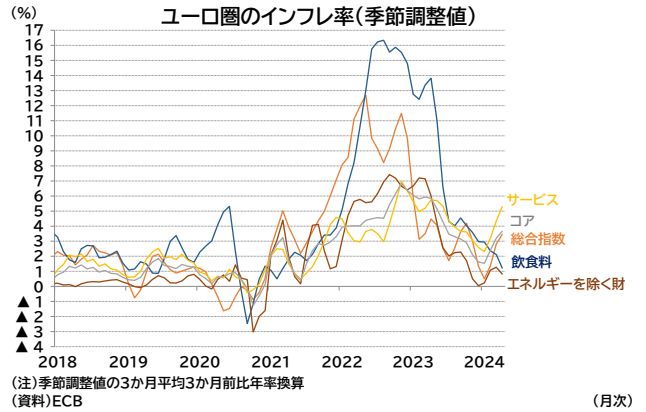
ギーを除く)は2月4.0%→3月4.0%→4月3.7%となり、5か月連続で4%を記録した後、3%台に低下した。3月までの費目別の上昇率は、**外食・宿泊**(3月5.3%)、**その他財・サービス**(3月4.1%)、**教育**(3月4.1%)が高止まりしている。前年同月比寄与度は、「財」が0.22%ポイント程度、「サービス」が1.53%ポイント程度と見られる。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で2月▲3.7%→3月▲1.8%→4月▲0.6%とマイナス幅の縮小が続いている。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.09%ポイント程度と見られる。費目別には3月の**光熱費**(前年同月比0.5%)が23年7月以来となる**プラス成長**を記録した。

(図表 3)



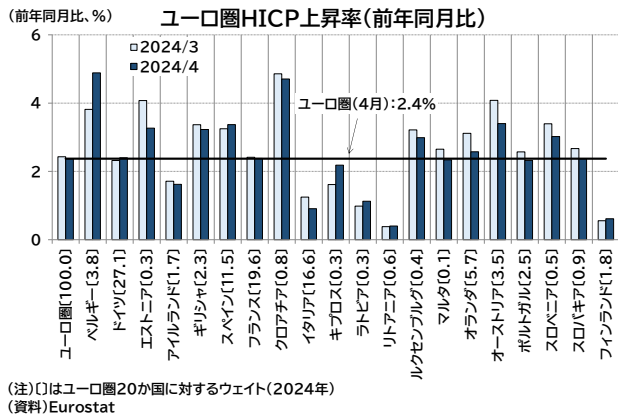
(図表 4)



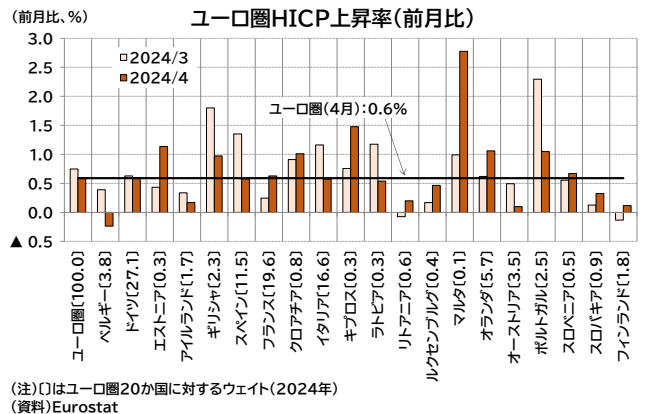
「**飲食料(アルコール含む)**」は、前年同月比で2.8%(3月2.6%)と12か月連続で低下した後、4月は上昇に転じた(図表3)。飲食料のうち加工食品の伸び率は3.2%(3月3.5%)と低下傾向が続く、未加工食品は1.3%(3月▲0.5%)と3月のマイナスからプラスに転じた。飲食料の前年同月比寄与度は0.61%ポイント程度(3月は0.53%ポイント)と見られる。

物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると(図表4)、3か月移動平均後の3か月前比年率で総合指数が3.5%(3月2.8%)、コアが3.7%(3月2.2%)、エネルギーを除く財が0.8%(3月1.3%)、サービスが5.3%(3月4.3%)、飲食料が1.2%(3月2.1%)となった。飲食料とエネルギーを除く財では物価上昇の勢いが加速しているが、サービスやコア、総合指数では勢いが加速しており、2%を上回っている状況が続いている。

(図表 5)



(図表 6)



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中、上昇したのは7か国、残りの13か国は低下した(図表5)。また、5か国が物価目標の2%を下回っている。なお、前月比では20か国中19か国がプラスの伸び率となった(図表6)。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。